

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

***日食観測隊(守山隊長)に授与されたモーリタニアの勲章を収蔵**

東京天文台発足以前から日食観測隊が組織され、各地に派遣された。記録に残る最初の日食観測隊は1883年(明治16年)10月31日の宮城県であった金環日食に東京大学天象台の寺尾寿らが派遣されている。観測地は宮城県名取郡で、結果は残念ながら雨であった。外国に日食観測で派遣された最初の観測隊は、1898年(明治31年)1月22日のインドであった皆既日食であり、観測隊員は寺尾寿、平山信、木村栄、水原準三郎の各氏であった。観測地はインドのジュール(ボンベイの東約300km)でコロナの直接写真が撮影された。この時使用された望遠鏡はブラッシャー天体写真儀のレンズ、鏡筒であった。

12回目の海外日食観測遠征隊が派遣されたのが、1973年(昭和48年)6月30日のモーリタニアにおける皆既日食の観測である。隊長が守山史生教授、隊員は日江井栄二郎、徳家厚、宮崎英昭であった。観測地はモーリタニアのアタールで、観測は砂塵のためコロナの偏光観測、天空光の測定、彩層直接像のいずれも不満足な結果であった。

このモーリタニアに派遣された日本からの日食観測隊に対して、モーリタニアから守山隊長に勲章(写真1)が授与された。勲記が写真2である。



写真1 モーリタニアの勲章

今回、日江井名誉教授を通じて守山史生元東京天文台教授からこれらの勲章、勲記が国立天文台長に届けられ、それらの管理をアーカイブ室に託された。



写真2 勲記

守山先生は、東京天文台時代、太陽物理部部長、乗鞍コロナ観測所長を歴任され、定年前に大阪学院大学に移られた方である。ちなみに筆者は、太陽物理部長時代の守山先生に招請され、恒星分類部から太陽物理部の真空紫外域分光実験室に移り、露見と搭載用観測装置の開発の仕事に移ったのである。

こういった日食観測隊に送られた勲章が私蔵されず、国立天文台アーカイブ室の託されたことは嬉しい限りである。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp